



株式会社ラック

2022年3月期通期決算説明会 説明内容

本資料は、2022年5月16日に実施した機関投資家・証券アナリスト向け決算説明会において、当社代表取締役社長の西本が説明した内容（一部要約）です。



株式会社ラック

2022年3月期 通期決算説明会資料

2022年5月16日

© 2022 LAC Co., Ltd.

社長の西本です。

本日はお忙しいなか、弊社決算説明会にご参加いただき誠にありがとうございます。

2022年3月期 通期決算概要

それでは、これより、2022年3月期 通期決算についてご説明いたします。

通期決算のポイント



事業環境変化が事業の進捗に影響

- ・ 診断サービスはセキュリティ市場への新規参入企業の増大により競争激化
- ・ 監視サービスは大手製造向けは順調に推移したものの、半導体不足による製品の納期遅延が影響
- ・ 開発サービスは一部大手金融向けシステム開発案件の遅延、大型案件終息が影響

セキュリティ事業に注力するグループ再編や保有株式の見直しを推進

- ・ ラックサイバーリンクをセキュリティ子会社として非中核事業（人材派遣ビジネス）を戦略的に縮小
- ・ アイ・ネット・リリー・コーポレーションを事業譲渡・株式売却
- ・ ジャパン・カレントの株式を一部売却（保有比率97→30% 非連結・非持分法化）、および保有有価証券を一部売却

サイバーセキュリティ事業拡大に向けた連携強化

- ・ (株)野村総合研究所と資本業務提携を締結し合併会社を設立（KDDI(株)とあわせ第三者割当増資を実施）
- ・ KDDIデジタルセキュリティ(株)（持分法適用会社）が好調に推移

**事業環境変化やグループ再編等の影響で売上高・営業利益は低調だったものの
特別利益の計上によりROEは10%台に回復
(株)野村総合研究所との資本業務提携など将来の事業拡大に向けた施策を推進**

まずは、通期決算のポイントです。

診断サービスにおける新規参入企業の増大や、監視サービスにおける半導体不足がセキュリティ事業の進捗として影響が出ました。また、開発サービスにおいて、一部大手金融業案件の着手に遅れたことが年間通して影響を受けました。このような事業環境の変化に、当社として十分に対処することができず、事業面で影響を受けました。

一方、前期は、グループ会社の再編や保有株式の見直しに取り組みました。まず、2018年4月に子会社化したアジアリンクを、セキュリティ子会社の位置づけを明確にするために「ラックサイバーリンク」と社名変更するとともに、セキュリティ事業以外のビジネスの戦略的縮小を進めました。

次に、SI事業のIT保守に位置付けるアイネットリリーを事業シナジーの観点で事業譲渡し、さらにインスタグラムの画像解析によるデジタルマーケティングサービスを手掛けるジャパン・カレントをMBOに応じる形で株式売却を行いました。加えて、事業との関連性を鑑みて、保有する有価証券について一部売却を行いました。

このような状況を背景に、売上高、営業利益は低調に推移しましたが、子会社株式売却などで特別利益を計上したことにより、ROEは10%台に回復しました。

また、野村総合研究所、NRIさんとの資本業務提携などを通じて、将来の事業拡大に向けた施策を進めることができました。

連結決算ハイライト（前期比）



売上高は子会社事業譲渡の影響^{※1}もあり減収
事業拡大に向けた販売体制等の強化により営業利益は減益
前期の特別損失に対し、今期は特別利益^{※2}を計上したこともあり当期純利益は大幅増益

(百万円)

科目	'21年3月期 通期実績	'22年3月期 通期実績	前期比	
			増減額	増減率(%)
売上高	43,693	42,660	△1,033	△2.4
営業利益	2,117	1,595	△522	△24.7
営業利益率%	4.8	3.7	△1.1p	-
経常利益	2,242	1,769	△472	△21.1
経常利益率%	5.1	4.1	△1.0p	-
親会社株主に帰属する当期純利益	304	1,401	+1,096	+359.8
自己資本当期純利益率 (ROE) %	2.6	10.2	+7.6p	-

※1.アイ・ネット・リリー・コーポレーション(株) 売却影響 売上高：△約1,070百万円、営業利益：△約100百万円

※2.子会社株式売却益219百万円、投資有価証券売却益224百万円を特別利益として計上（前期は長期滞留仕掛品評価損1,248百万円を特別損失として計上）

4

© 2022 LAC Co., Ltd.

次に、決算ハイライトについてご説明いたします。

売上高は、子会社の事業譲渡などの影響もあり、前期比 2.4%減の 426 億 6000 万円となりました。営業利益は、販売体制の強化などを進めたこともあり、24.7%減の 15 億 9500 万円となりました。また経常利益は、持分法適用会社の KDDI デジタルセキュリティが好調に推移したものの、21.1%減の 17 億 6900 万円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益は、前期の特別損失に対し、今期は特別利益を計上したこともあり、大幅な増益となっています。

ROE については、10.2%と、3 期ぶりに 10%台に回復いたしました。

セグメント別業績（前期比）



セキュリティ事業は増収・減益、SI事業は減収・減益
IT投資等により全社共通費用は増加

(百万円)

売上高	'21年3月期 通期実績	'22年3月期 通期実績	前期比	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス (SSS) 事業	18,659	19,380	+720	+3.9
システムインテグレーションサービス (SIS) 事業	25,033	23,279	△1,754	△7.0
合計	43,693	42,660	△1,033	△2.4
セグメント利益	'21年3月期 通期実績	'22年3月期 通期実績	前期比	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス (SSS) 事業	2,541	2,319	△222	△8.8
システムインテグレーションサービス (SIS) 事業	3,172	2,985	△187	△5.9
合計	5,714	5,304	△409	△7.2
全社共通費用	△3,597	△3,709	△112	-

(注) セグメント利益は、全社共通費用を組み入れる前の、事業にかかる販売費および管理費を含めた利益です。

5

© 2022 LAC Co., Ltd.

次にセグメント別の業績です。

セキュリティ事業は、前期比 3.9%の増収ながらも 8.8%の減益となり、SI 事業は、前期比で 7.0%の減収、利益も 5.9%の減益となりました。

全社共通費用は、基幹システムの開発を含めた社内 IT 投資を進めたことで、前期から約 1 億円の増加となりました。

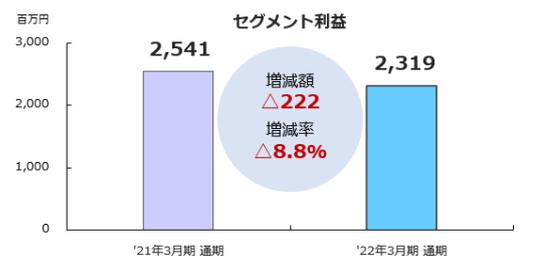
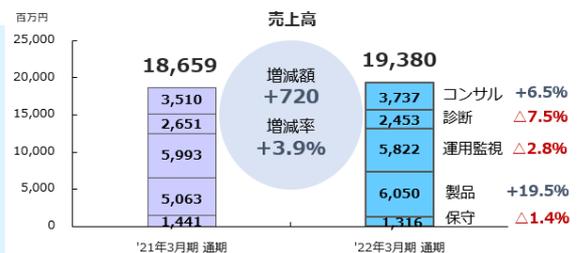
次に各セグメントの詳細についてご説明いたします。

セグメント別業績ポイント セキュリティソリューションサービス（SSS）事業



製品販売、コンサルティングが拡大し増収ながらも、販売体制強化により減益

<p>コンサルティングサービス 企業に対するサイバー攻撃が依然として猛威を振うなか、緊急対応サービスが大きく伸長</p>
<p>診断サービス 標的型攻撃メールに対する予防訓練サービスやプラットフォーム診断サービスは増加したものの、緊急事態宣言下でのお客様のシステム開発延期、競争激化の影響を受けてWeb診断サービスが落ち込み減少</p>
<p>運用監視サービス 運用監視サービスは既存および新規導入案件の進捗が堅調に推移 子会社ラックサイバーリンクにおける人材派遣ビジネスの戦略的縮小で減少</p>
<p>製品販売 エンドポイント対策およびサービス妨害型攻撃にも対応したWebセキュリティ対策をはじめとするクラウド対応製品などが拡大</p>
<p>保守サービス クラウド対応製品の拡大に伴い既存案件が減少</p>



6

© 2022 LAC Co., Ltd.

まずはセキュリティ事業です。

コンサルティングは、サイバー攻撃に対する緊急対応サービスが、引き続き高水準で推移したことで増収となりました。

診断サービスは、標的型メール訓練サービスや、プラットフォーム診断サービスは拡大したものの、冒頭でご説明したとおり、競争激化などの影響を受け、Web 診断サービスが落ち込んだことにより、減収となっています。

運用監視サービスは、子会社のラックサイバーリンクの非中核ビジネスである人材派遣事業を戦略的に縮小した結果、減収となりました。

一方、主軸の運用監視サービスは、新規案件などが堅調に推移しており、運用監視サービス（のサブセグメントとして）はラックサイバーリンクを除くと実質 3%の増収となっています。

製品販売は、エンドポイント対策のクラウドストライクや、DDoS 攻撃対策で定評のあるアカマイ社のウェブアプリケーションファイアウォールなど、クラウド対応製品が伸長したことにより、大幅な増収となりました。

保守サービスの減収は、セキュリティ製品がオンプレミスからクラウド対応製品へと移行していることによるものです。

セグメント利益は、セキュリティ製品などビジネスの拡大に対応するため販売体制を強化していることから、減益となっています。

子会社の事業譲渡や大型案件減などの影響により減収・減益

開発サービス

一部金融業向けの新規開発案件が滞ったことや公共関連の大型案件の終息などの影響があったものの、サービス業や製造業向けに案件が拡大

HW/SW（ハードウェア・ソフトウェア）販売

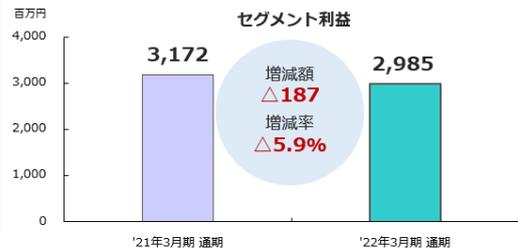
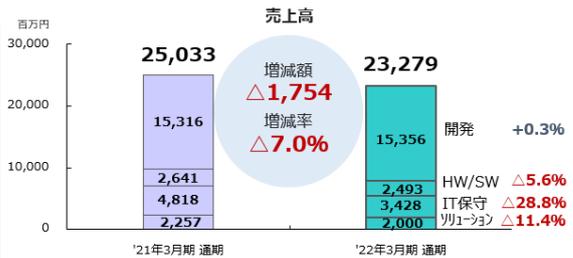
クラウドサービスの拡大等で需要が縮小したことで更新案件が減少

IT保守サービス

HW/SW関連の保守契約において、前期は大型案件があったものの、当期は同様の案件がなかったこと、また子会社アイ・ネット・リリー・コーポレーションの事業譲渡影響等により減少

ソリューションサービス

マルチクラウド開発管理などクラウド関連のソリューション販売等が好調に推移したものの、子会社アクシスにおいて前期に計上した教育分野向けの大型案件が当期はなかったことにより減少



7

© 2022 LAC Co., Ltd.

次にSI事業です。

SI事業の屋台骨である開発サービスは、冒頭でご説明したとおり、一部大手金融業向けの新規開発案件の着手が遅れたことや、公共関連で前の期に終息した大型案件の影響があったものの、サービス業や製造業向けの案件が大きく拡大したことで、全体として横這いとなりました。

HW/SWは、需要が縮小傾向にあることから減収となりました。第2四半期に半導体不足による納品遅延の影響がありましたが、この納品遅延については、第3四半期以降、概ね収束しています。

IT保守は、子会社であるアイネットリリーを、第1四半期に株式譲渡したことにより、大幅な減収となりました。

ソリューションは、マルチクラウド向けの開発管理やクラウド関連の販売は好調に推移しましたが、子会社のアクシスにおいて、その前の期にあったGIGAスクール向けのPCやタブレット販売の特需の反動で減収となりました。

このような結果から、セグメント利益は、減益となっています。

連結貸借対照表ハイライト（前期末比）

第三者割当増資により純資産と現預金が大幅に増加、投資のための財務基盤を強化

(百万円)

科目	'21年3月期末	'22年3月期末	前期末比 増減
資産合計	24,626	25,306	+679
流動資産	16,349	17,873	+1,524
固定資産	8,277	7,433	△844
負債合計	12,965	9,537	△3,428
流動負債	10,032	7,957	△2,074
固定負債	2,933	1,579	△1,353
純資産合計	11,661	15,769	+4,108
現預金	6,367	9,785	+3,418
有利子負債	4,843	2,746	△2,096
自己資本比率	47.3%	62.3%	+15.0p

増減ポイント	
資産	
【流動資産】	
現金及び預金の増加	+3,418
売掛金の減少	△1,144
商品の減少	△449
負債	
【流動負債】	
1年内返済予定の長期借入金の減少	△736
その他に含まれる未払金の減少	△574
【固定負債】	
長期借入金の減少	△1,332
純資産	
【純資産】	
資本金及び資本剰余金の増加	+3,296
利益剰余金の増加	+778

8

© 2022 LAC Co., Ltd.

続いて、財務状況です。

借入金の返済が進んでいることから、負債が大きく減少しています。

第4四半期に、第三者割当増資を実施したことから、純資産や現預金が大幅に増加しており、将来の投資のための財務基盤の強化につながっています。

連結キャッシュ・フロー計算書ハイライト



利益拡大と運転資本改善により営業キャッシュ・フローが増加、 投資有価証券売却もありフリーキャッシュ・フローが大きく増加

(百万円)

科目	'21年3月期 通期実績	'22年3月期 通期実績	発生ポイント
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,969	2,956	営業キャッシュ・フロー 税金等調整前当期純利益 2,020 減価償却費 950 のれん償却額 72 売上債権の減少額 979 棚卸資産の減少額 452 法人税等の支払額 △756
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,358	△105	投資キャッシュ・フロー 有形固定資産の取得による支出 △596 ソフトウェアの取得による支出 △341 投資有価証券の売却による収入 671 連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入 253
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,091	562	財務キャッシュ・フロー 長期借入金の返済による支出 △2,068 株式の発行による収入 3,296 配当金の支払額 △622
フリーキャッシュ・フロー	610	2,850	
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	1,713	3,418	
現金及び現金同等物期首残高	4,653	6,367	
現金及び現金同等物期末残高	6,367	9,785	

9

© 2022 LAC Co., Ltd.

次に、キャッシュ・フローの状況です。

営業キャッシュ・フローは、利益の拡大と運転資本の改善により、29 億円と前期から大きく増加しました。

子会社株式や投資有価証券の売却により、投資活動によるキャッシュ・フローは 1 億円のマイナスにとどまり、フリーキャッシュ・フローは 28 億円となっています。

第三者割当増資により、現金および現金同等物の期末残高が 97 億円と潤沢となっています。1 月に開示しましたとおり、得られた資金は、主にセキュリティ事業拡大のための M&A や資本業務提携などへの投資に活用する予定としています。4 月 21 日に開示しましたとおり、内部不正対策分野への事業強化のために、エルテス社へ出資するなど具体的な取り組みを進めています。

連結決算ハイライト（予想比）



売上高、営業利益、経常利益は予想を下回る
親会社株主に帰属する当期純利益は予想を若干上回って着地

科目	'22年3月期 通期予想(21/5/12)	'22年3月期 通期実績	予想比増減	
			増減額	増減率(%)
売上高	47,200	42,660	△4,539	△9.6
営業利益	2,100	1,595	△504	△24.0
営業利益率%	4.4	3.7	△0.7p	-
経常利益	2,075	1,769	△305	△14.7
経常利益率%	4.4	4.1	△0.2p	-
親会社株主に帰属する当期純利益	1,390	1,401	+11	+0.8
自己資本当期純利益率（ROE）%	11.2	10.2	△1.0p	-

(注) 1.アイ・ネット・リリー・コーポレーション(株)売却影響 売上高：△約970百万円、営業利益：△約30百万円

10

© 2022 LAC Co., Ltd.

次に昨年5月12日に公表した予想との対比についてご説明いたします。

冒頭の決算のポイントでご説明したとおり、事業環境の変化に対応しきれなかったこと、またグループ会社の再編などにより、売上高、営業利益とも予想を下回る着地となりました。

一方、親会社株主に帰属する当期純利益は、特別利益を計上したことにより、予想を若干上回る着地となっています。

セグメント別業績（予想比）



セグメント別においても売上・利益とも予想を下回る
全社共通費用は経費抑制等により予想を下回る

売上高	'22年3月期 通期予想(21/5/12)	'22年3月期 通期実績	予想比増減	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス（SSS）事業	20,500	19,380	△1,119	△5.5
システムインテグレーションサービス（SIS）事業	26,700	23,279	△3,420	△12.8
合計	47,200	42,660	△4,539	△9.6

セグメント利益	'22年3月期 通期予想(21/5/12)	'22年3月期 通期実績	予想比増減	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス（SSS）事業	3,400	2,319	△1,080	△31.8
システムインテグレーションサービス（SIS）事業	3,100	2,985	△114	△3.7
合計	6,500	5,304	△1,195	△18.4

全社共通費用	△4,400	△3,709	+690	-
--------	--------	--------	------	---

(注) セグメント利益は、全社共通費用を組み入れる前の、事業にかかる販売費および管理費を含めた利益です。

11

© 2022 LAC Co., Ltd.

セグメント別においては、セキュリティ事業、SI事業ともに予想を下回る着地となりました。

SI事業における売上高の未達は、屋台骨である開発サービスの案件が獲得できなかったこと、また予想に織り込んでいなかった子会社の事業譲渡の影響によるものです。

また、セキュリティ事業の利益の未達は、診断、監視などサービスの売上の未達が利益面に影響したものととなります。

2023年3月期 主な取り組み

それでは、次に、2023年3月期の主な取り組みについてご説明いたします。

共創と挑戦の推進



中期経営計画テーマ



セキュリティとシステムインテグレーションの事業共創によって
きたるべき未来へ挑戦を続ける



共創による事業領域拡大を推進

13

© 2022 LAC Co., Ltd.

中期経営計画のテーマを「共創と挑戦」としており、セキュリティとシステムインテグレーション、そしてパートナー企業との事業共創で、未来へ挑戦し続けるものとしています。

先程触れました、NRIさんやエルテス社とともに、共創により事業領域を拡大していくことを目指していきます。

業務提携等とあわせサイバーセキュリティ対策の事業を拡大 サイバー脅威や被害が拡大している「クラウド」「ランサム」「内部不正」に注力



昨今、サイバー脅威が、クラウド、内部不正と従来の範囲から拡大するとともに、ランサム攻撃、いわゆる身代金要求型のサイバー攻撃の被害もより増大し、社会問題化しています。

サイバーセキュリティ対策で業界をリードしてきた当社が、それぞれの領域で強みを持つ企業と手を結ぶことで、このような社会問題の解決に向けて取り組んでまいります。

クラウドに対しては、金融や産業 IT の分野で強みを持つ NRI さんと、当社との間で設立した合併会社「ニューリジェンセキュリティ」が、大企業をはじめとするお客様に安心してクラウド基盤を活用いただけるよう、セキュリティサービスを提供してまいります。

また、内部不正に対しては、独自ソリューションで定評のあるエルテス社と、資本業務提携を通じてサービスの提供に取り組んでまいります。連携強化のため、当社はエルテス社の第三者割当増資に応じ、株式の 10%を保有することとしました。

昨今話題になっているランサム攻撃に対しては、もともと当社が強みとするサイバー攻撃対策の領域であり、緊急対応サービスや監視サービスの対応力をより強化するとともに、教育、診断など他のサービスと連携していくことで、事業拡大を行っていくことを目指しています。

それぞれの取り組みについて、次のスライドで詳しくご説明したいと思います。

クラウド向けセキュリティサービス



ラックとNRIグループのノウハウを活用してクラウドセキュリティの運用を支援



まずは、クラウド向けセキュリティサービスです。

大企業において、様々な事業・業務領域でクラウド活用が始まっていますが、セキュリティが課題となり踏みとどまっている企業もあります。

NRIさんは、クラウドを含むIT基盤構築に強みを持ち、またグループ会社であるNRIセキュアテクノロジーズが、その事業領域でサイバーセキュリティ対策サービスを提供しています。

クラウドが企業のIT基盤としてプラットフォーム化していくなかで、当社とNRIグループが共に手を組み、クラウドにおける国内標準のセキュリティ対策を定めていくことを視野に入れています。

その先駆けとして、両社の合併会社であるニューリジェンセキュリティが、ラックとNRIグループのノウハウを活用し、AIによるクラウドセキュリティ運用支援サービスを提供してまいります。

これに、ラックやNRIセキュアテクノロジーズがそれぞれの特色を追加して、お客様にサービスを提供してまいります。

今後、ニューリジェンセキュリティからの直販も予定しており、ニューリジェンセキュリティ自身の事業拡大もあわせて取り組んでいきます。

内部不正対策向けセキュリティサービス



内部不正への専門的知見と独自のサービスを展開している
エルテス社とラックの得意領域と組み合わせサービスを提供

エルテス	ラック	
内部不正監視	× セキュリティ監視センター 	エルテスの内部不正監視と当社のセキュリティ監視サービスを組み合わせサービスを提供
ソーシャルリスク マネジメント	× サイバー救急センター 	エルテスのソーシャルリスクマネジメントサービスを活用したリスク対策サービスを提供
データ分析技術を活用した 新ビジネスの開発		エルテスのAIを活用したデータ分析技術と当社が保有する脅威情報をもとに新たなビジネスを創出

次に、内部不正対策向けセキュリティサービスです。

ゼロトラストという概念もあり当社も推進していますが、内部不正対策としては十分ではありません。普段、やることのない膨大なデータをダウンロードしたり、通常は活動しない時間帯にログインをしたりするなど、イレギュラーなふるまいを見つけ、対応していくことが重要となります。

昨今、テレワークを常態化する企業も増えていますが、社員のID、PWなどのクレデンシャル情報を盗み、社員になりすまして社内システムに入り、情報を奪うなどの手口も非常に増えています。

クレデンシャル情報が盗まれると、ネットワーク管理上は「社員」である以上、その社員の権限で、例えばデータベースにある社内情報を入手することもできます。これを防ぐ内部不正対策は、外部からのサイバー攻撃を常時監視する、当社のセキュリティ運用監視サービスともシームレスにつながっていきます。

AIを活用して不審なふるまい検知を行う、内部不正監視サービスを提供しているエルテス社と、ラックの運用監視を組み合わせ統合監視サービスを提供していくことで、外部だけでなく内部の脅威からも、お客様を総合的に守ります。

また、エルテス社は、SNSの炎上やネット上の誹謗中傷などに対応するソーシャルリスクマネジメントサービスも手掛けています。当社の緊急対応サービスと組み合わせることで、お客様に対し、リスク対応力の範囲を広げることができます。

さらに、エルテス社の技術に、ラックの持つ脅威情報を組み合わせることで、新たな事業を創出できるのではないかと期待しています。

ランサム攻撃対策向けセキュリティサービス



サイバー攻撃対策のエキスパートとしての強みを活かして ランサム攻撃対策サービスを提供



最後に、ランサム攻撃対策へのセキュリティサービスとなります。

暗号資産、いわゆる仮想通貨が一般化していることにより、攻撃者にとって、国境を越えたサイバー犯罪がやりやすくなっています。

データを暗号化して、解除したければ仮想通貨を払えと要求するランサム攻撃が後を絶ちません。

グローバル規模の大手企業だけでなく、地域の病院なども攻撃の対象となっており、特に中小の企業はなかなか手を打てないのが実情ではないかと思えます。

当社は、これまでもランサム攻撃被害に対して、緊急対応サービスによる一次対応、その後のコンサルティングや、運用監視サービスによる体制強化など、サプライチェーン全般にわたる様々な対策サービスを提供してきました。また、注意喚起情報をはじめとする情報発信にも努めてまいりました。

今後、教育サービスや、診断サービスとも連携させ、十分な対応が取れない中小企業の皆様にも寄り添い、対策の指針となるような情報発信を行って、いわば「ランサム攻撃対策のラック」と言われるよう活動に注力し、サービス提供に取り組んでいきたいと考えています。

2023年3月期 連結業績予想

それでは、次に2023年3月期の業績予想についてご説明いたします。

連結業績予想（前期比）



ランサム攻撃や内部不正などへのサイバーセキュリティ対策需要やシステム開発への投資拡大を背景に、大幅な増収増益を予想

(百万円)

科目	'22年3月期 通期実績	'23年3月期 通期予想	前期比	
			増減額	増減率(%)
売上高	42,660	50,000	+7,339	+17.2
営業利益	1,595	2,100	+504	+31.6
営業利益率%	3.7	4.2	+0.5p	-
経常利益	1,769	2,100	+330	+18.7
経常利益率%	4.1	4.2	+0.1p	-
親会社株主に帰属する当期純利益	1,401	1,410	+8	+0.6
自己資本当期純利益率(ROE)%	10.2	8.8	△1.4p	-

19

© 2022 LAC Co., Ltd.

先程ご説明したように、サイバー脅威に対する領域は広がってきており、セキュリティ対策需要は一層拡大していくものと考えております。

また、クラウド基盤の活用など、企業のデジタル化がますます進められており、システム開発への投資も拡大基調にあると見ています。

コロナ禍、ウクライナ情勢の長期化など不透明感はありますが、売上高は500億円、営業利益は21億円、親会社株主に帰属する当期純利益は14億1000万円の予想としました。

なお、ROEは8.8%と予想しています。

セグメント別業績予想（前期比）



セキュリティ事業、SI事業とも大幅な増収増益を予想
社内IT投資、組織体制の強化などにより全社共通費用は増加を予想

(百万円)

売上高	'22年3月期 通期実績	'23年3月期 通期予想	前期比	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス (SSS) 事業	19,380	24,000	+4,619	+23.8
システムインテグレーションサービス (SIS) 事業	23,279	26,000	+2,720	+11.7
合計	42,660	50,000	+7,339	+17.2

セグメント利益	'22年3月期 通期実績	'23年3月期 通期予想	前期比	
			増減額	増減率(%)
セキュリティソリューションサービス (SSS) 事業	2,319	3,800	+1,480	+63.9
システムインテグレーションサービス (SIS) 事業	2,985	3,300	+314	+10.5
合計	5,304	7,100	+1,795	+33.8

全社共通費用	△3,709	△5,000	△1,290	-
--------	--------	--------	--------	---

(注) セグメント利益は、全社共通費用を組み入れる前の、事業にかかる販売費および管理費を含めた利益です。

20

© 2022 LAC Co., Ltd.

セグメント別では、セキュリティ事業、SI 事業とも大幅な増収・増益の予想としています。

全社共通費用に関しては、2024年3月期の運用開始を予定している基幹システムの開発投資を含めた社内IT投資、また管理部門の組織体制強化に向けた施策を進めていくことから、大きく増加する予想としています。

（ご参考）サブセグメント別業績予想（前期比）



(百万円)

売上高	'22年3月期 通期実績	'23年3月期 通期予想	前期比	
			増減額	増減率%
セキュリティソリューションサービス (SSS) 事業	19,380	24,000	+4,619	+23.8
セキュリティコンサルティングサービス	3,737	4,400	+662	+17.7
セキュリティ診断サービス	2,453	3,150	+696	+28.4
セキュリティ運用監視サービス	5,822	7,300	+1,477	+25.4
セキュリティ製品販売	6,050	7,700	+1,649	+27.3
セキュリティ保守サービス	1,316	1,450	+133	+10.1
システムインテグレーションサービス (SIS) 事業	23,279	26,000	+2,720	+11.7
開発サービス	15,356	17,300	+1,943	+12.7
HW/SW販売	2,493	2,900	+406	+16.3
IT保守サービス	3,428	3,000	△428	△12.5
ソリューションサービス	2,000	2,800	+799	+39.9
合計	42,660	50,000	+7,339	+17.2

21

© 2022 LAC Co., Ltd.

サブセグメント別での業績予想がこちらのスライドとなります。

セキュリティ事業においては、ランサム攻撃や内部不正などへの対策に向け、主に運用監視サービスと、製品販売を大きく伸ばす予想としています。

特に、運用監視においては、中部大手製造業のように、大手企業グループごとの監視ニーズが高まっており、サプライチェーンを通じた導入が広がっています。その更なる案件の拡大に取り組みます。

製品販売は、クラウド対応型ウェブアプリケーションファイアウォールであるアカマイがストックビジネス化しており、またランサム攻撃に大きな効果がある EDR 製品のクラウドストライクなどを含め、更なる積み増しを進めます。

SI 事業においては、企業の DX 推進の本格化を背景に、開発サービスの案件拡大に取り組みます。既存顧客だけでなく、新規顧客の開拓のために、セキュリティを軸にした当社ならではの特色あるソリューション製品や、当社の金融犯罪対策センターが提供するソリューション「AI ゼロフラウド」などをトリガーとして、開発案件を獲得していくことで、売上の拡大を目指します。

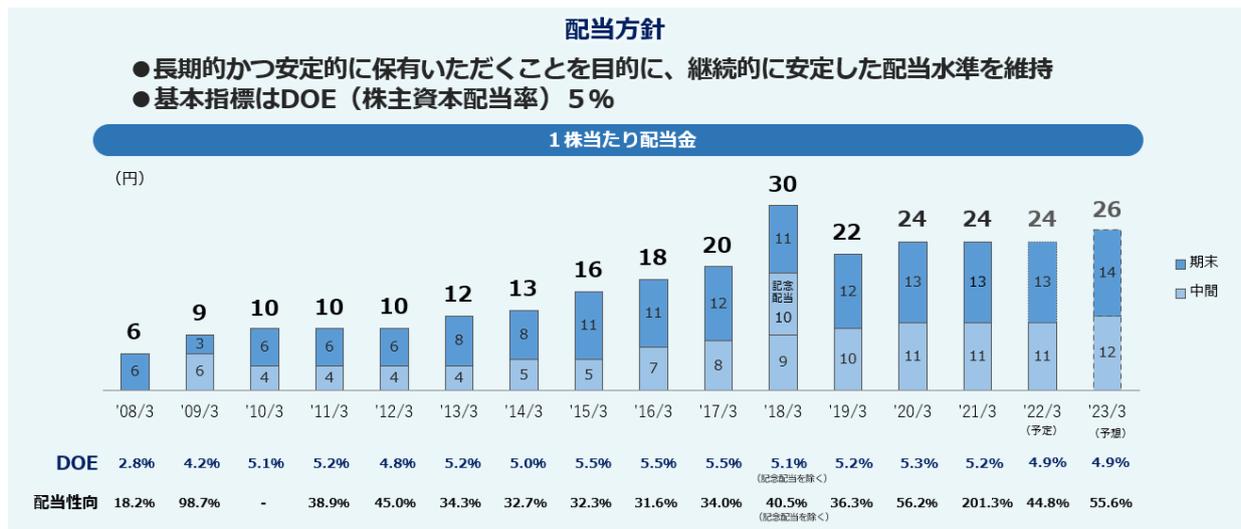
株主還元

最後に株主還元となります。

株主還元（年間配当）



年間配当は24円の予定、今期は26円の予想



23

© 2022 LAC Co., Ltd.

当社の配当方針は、継続的に安定した配当水準を維持することから、基本指標をDOE5%としています。

2022年3月期の期末配当については、期初予想のとおり13円とし、すでにお支払いした中間配当とあわせ、1株当たりの年間配当を24円とする予定です。

また、今期の年間配当については、2円増配の26円と予想しています。



私からの説明は以上となります。ご清聴、誠にありがとうございました。

以上